

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病虫害発生予察情報について

令和2年度農作物病虫害発生予報第14号を公表したので送付します。

令和2年度農作物病虫害発生予報第14号

令和3年3月1日
徳島県

I. 果樹
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い
発生量 平年並(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 勝浦町における昨年の予察灯誘殺数は, 年間をとおして平年に比べて少なく推移し, 上板町では, 年間をとおして平年に比べてやや少なく推移した(表1)。

表1 果樹カメムシ類(チャバネアカカメムシ, ツヤカメムシ, クギカメムシの合計)の予察灯への誘殺数

月	勝浦町			上板町		
	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年
4	0	36	24.2	5	48	20.6
5	76	1175	676.6	219	222	271.5
6	152	2233	946.5	151	113	167.1
7	213	848	824.9	162	111	470.4
8	311	903	2424.3	246	121	384.9
9	239	941	1765.2	240	170	238.2
10	137	170	1245.2	30	164	155.6
11	24	6	53.5	1	5	11.2

- (2) 2月に実施したチャバネアカカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.8頭/m²であり, 平年(2.3頭/m²)並の越冬密度で, 前年(成虫確認地点数は9地点, 越冬成虫数は0.7頭/m²)並の越冬密度であった。
- (3) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.0%、発病度が0.8)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.4%、発病葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20～25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%と、平年(47.8%)に比べてやや低いが、寄生葉率は0.6%と、平年(3.7%)に比べて低い。なお、種別割合は、オンシツコナジラミが約25%であり、タバココナジラミが約75%である。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているため、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が10.2%、発病葉率が0.2%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.6%と、平年(61.7%、7.3%)に

比べて低い。

(2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)気温が25℃くらいで多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.1%、寄生葉率が0.1%)。

(2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が0.3%と、平年(43.8%、6.5%)に比べて低い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は被害果率が1.5%)。

(2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、寄生葉率が5.7%と、平年(28.6%、2.3%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が4.5%, 寄生葉率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 葉液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では, 発生圃場率が55.6%, 発病葉率が2.1%と, 平年(68.9%, 9.0%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は圃場外に持ち出し, 病原菌密度の低下に努める。
- (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が8.9%, 発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので, 適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので, できるだけ早く除去し, ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

べと病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より少ない), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%, 発病葉率が4.8%と, 平年(49.4%, 10.1%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は多く, 日

照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病葉率が2.1%と、平年(61.7%, 10.2%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、寄生葉率が0.9%と、平年(28.3%, 3.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が1.6%と、平年(6.7%, 0.2%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.9%、発病度が0.5)。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。
- (4) 病原菌は被害株に付着越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているため、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、1株当たり寄生虫数が0.00頭と、平年(40.4%, 0.2頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%、発病果率が0.2%と、平年(7.1%, 0.4%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2)発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3)薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.1%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.1%)。
- (2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3)罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4)薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

- (1)2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%、寄生株率が9.4%と、平年(25.0%、3.3%)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、寄生葉率が6.1%と、平年(70.7%、14.8%)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が2月25日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。